

3-9			
主題	トイレに座れば出るんだけどな		
副題	ご入居者の「心の声」は何気ない一言に隠されている		
ケアの質の向上		人材育成	研究期間 10ヶ月
法人名	社会福祉法人園盛会		
事業所名	特別養護老人ホーム 多摩の里 けやき園		
発表者： 常盤雄太・村上さなえ		アドバイザー：木原孝	
共同研究者：多摩の里けやき園排泄ケア向上委員会			
電 話	042-460-8151	FAX	042-460-8152
今回発表の事業所やサービスの紹介	平成17年に開設しました定員114名のユニット型施設です。全室個室でゆとりのある居住空間を提供しています。「その人らしさを大切に」の法人理念のもと、ご入居者が快適な生活を送れるように自立支援を行っています。		

《1. 研究前の状況と課題》 {対象者} T様 88歳 男性 {既往歴} 脳出血 廃用症候群 糖尿病 {身体状況等} 移動：車椅子 排泄：昼夜オムツ 食事：粥 極刻み食 その他：元々は礼儀正しく、穏やかな性格 見当識障害はあるものの、意思疎通は可能 ①脳出血後遺症以後は、常時オムツ使用となつてからは生きる事に自信を失っていた。 - 日常生活でも介助に対して些細な事も依存しやすく理由もなくナースコールを何度も押す行為が日々当たり前となっていた。 - 食後すぐに臥床の要求があり、思い通りにならなければ大声で叫ぶといった行動が多く見られた。 ②他のご入居者とのコミュニケーションもなく、孤立した存在であった。 以上のように入居される前の「その人らしさ」とはかけ離れた生活を送っていた。	《2. 研究の目的ならびに仮説》 目的 - ADLとQOLの向上を目指す事で自信を取り戻し、その人らしい生活を送っていただきたい。 T様がオムツ交換の際に何気なく言った「トイレに座れば出るんだけどな」この一言をきっかけに以下の仮説を立てた。 仮説 - 排泄についての見直しを行いトイレに座って自然排便していただく事で自信を取り戻す。 - トイレに座る為には、下肢筋力の向上と立位安定を図るリハビリへの意欲につながる。 - 自信を取り戻す事で、心に余裕ができ、他のご入居者との人間関係を構築する事で、孤立を防ぐ。
---	---

《3. 具体的な取り組みの内容》

- ①常時オムツ使用からトイレに移行できるのかをユニット内でミーティングを開き意見交換を行った。
- ②毎月の排泄ケア向上委員会においてT様の事例の検討をして、適切な尿取りパット等の使用方法やトイレ誘導のタイミングについて取り組みを行った。
- ③排便サポート・トイレ誘導への取り組みなどのチェック表を作成し実施した。
- ④ご本人との取り決めをして、食後に排便を促す為のリハビリ運動として、フロア内を一周り車椅子で自操する事とした。
- ⑤下肢筋力の向上を目指して医務課リハビリ係に相談しリハビリを行った。
- ⑥医務課や栄養課と相談し、下剤に頼らない排便をするために、食事の他に牛乳を中心に水分を積極的に摂取するようにした。

《4. 取り組みの結果》

この取り組みを行う事により、ご自身が「トイレに行きたいです」と自然に発せられるようになった。リハビリの効果と本人の意欲が相乗し、ADLが向上、トイレでの立位も安定してきた。しかし、ご本人の希望でトイレ誘導を行っても出ない場合もあったが、「出るまでもう少し頑張ってみます」「便が出ないけどおかしいなー」との発言も聞かれトイレに座る行為が当たり前になった。

フロア内を車椅子自操する事により、同じく自操されているご入居者と挨拶を交わし、途中、他ユニットのご入居者と雑談や世間話をされるように変化が表れた。また、職員を呼び止め介助の依存から自身の昔話をされるようになった。これにより自然と離床時間も増え、生活のリズムも整ってきた。

「以前の僕ではありませんから、僕は生まれ変わりました」といった発言も聞かれ、生きる自信を取り戻し、行事やレクリエーションにも積極的に参加されるようになった。

《5. 考察、まとめ》

T様の何気ない一言をきっかけに、オムツではなくトイレに行くという当たり前の支援する事で、排泄の成功結果が、ご本人の自信となって様々な事に意欲が増し、その人らしい生活を取り戻した。

「立てないしトイレは無理」「この人はオムツ対応だから」といった固定概念に囚われてしまいがちだが、ご入居者の何気なく発する「心の声」に気が付き、支援していく事が「その人らしい生活を送って頂く」というニーズにつながると考えられる。

職員も改めてご入居者の言葉を良く聞き、何を望んでいるのか、それを解決するにはどのようにアプローチをしていけばよいのかを考え、実践していく事がQOLの向上にもつながる事を再認識できた。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しない事、それにより不利益を被る事はない等を説明し、回答をもって同意を得た事とした。

《7. 参考文献》

「アセスメントから始める排便サポート」
発行所 ユニ・チャームメンリッケ株式会社
監修者 鎌田ケイ子

《8. 提案と発信》

何気なく発せられた一言に隠された「心の声」を読み取り、私たちに何が出来るのかを考え、本人の希望を叶える事により、自信を取り戻し、ご入居者の意欲も向上した。

現状のケアに満足する事なく、より良いケアへのアプローチしていく事が介護職員全体のレベルアップにつながるのではないだろうか。